

## まいてください、福島のお母さんたちの声を

はちみつ會では、これまでに7回の保養ツアーを開催し、たくさんの福島の親子と出会ってきました。震災から5年。「福島で暮らす今の思い、私たちに伝えたいことを書いてほしい」とお願いしたところ、4人の親御さんが文章を寄せてくださいました。一人でも多くの方に読んでいただきたいと思います。

### 福島で本当に安心して暮らせるまで子どもたちと一緒に守ってください

震災から5年が経ちました。

あの日私たちの生活は一変しました。

近所の公園で遊べなくなりました。

暑い夏、庭にプールを出せなくなりました。

毎年楽しみにしていた花火大会に行けなくなりました。

大好きないわきの海に入れなくなりました。

おじいちゃんが作る新鮮な野菜とお米が食べられなくなりました。

外食に行けなくなりました。

子どもの大好きなお寿司やお刺身を制限しました。

県外産の食品を求めて遠くまで買い物にいきました。

毎週末県外まで公園遊びに出かけました。

好奇心旺盛な時期にあればダメ、これはダメとダメダメばかりいいました。

家族との間に隙間ができました。

保育園の牛乳をとめて、豆乳を持参したら保育園から園長にお礼を言うように言われ温度差を感じました。

放射線の話が気安くできなくなりました。

周りの雰囲気と「がんばろう福島」の言葉に福島を否定しているのではないかと、間違っただけを自問自答しながら過ごしました。

3年くらい神経を張り詰めていたと思います。

子どもにもあたっていたかもしれません。

本末転倒だったかもしれません。

5年経って、学校は震災前に戻りました。

うちの子は外に出さないで、プールに入らないで、給食食べないで、なんて言えません。

甲状腺嚢胞たくさんあるし、家の2階は未だ0.2マイクロシーベルト近くあるし、

心配だけど、5年成長した息子たちに親の意見だけを通すことはできません。

今は子どもの気持ちを聞きながら自分にできる範囲で頑張っています。

その一つが保養なのです。

「がんばろう福島」の陰に隠れながらも子どもを守ろうと必死なお母さん、本当はもっとたくさんいると思います。でもお母さんの力だけでは足りないのです。

福島の子どものために一生懸命動いてくれるはちみつ会の皆さん、ご支援していただいている皆さんには感謝しきれません。

どうか福島が本当に安心して暮らせるまで子どもたちと一緒に守ってください。

福島のお母さんたちが後悔しないように。家族みんなが笑顔で暮らせるように。(Aさん)

---

## 放射能からの影響から子供たちの体を休ませてあげたい

---

2011年、福島には地震と津波とそして目には見えない放射能がやってきました。当時は、放射性物質を吸い込まないようにと、学校からマスクを配布され、暑い夏を過ごしたことを覚えています。もちろんプールにも入れませんでした。

学校のグラウンドも除染しないと使用できないということだったので、しばらくの間は外遊びもできない状態が続きました。学校のグラウンドの除染は比較的早い方でしたが、近所の除染は去年やっと終わったというところで、学校以外で外遊びすることが無くなっていました。

そんな中、はちみつ會の保養は子供たちに新しい風を吹き込んでくれた様な、そんな気がしました。遊びを制限されていた子供たちに、自然と触れあえる川遊びや昆虫採集など、沢山の遊びを学ばせていただきました。川の冷たさ、虫の感触、土のおい、忘れていたものが目を覚ましたかのように全力で遊ぶ子供たちを見てとても嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

2016年現在、除染も進み、終わりに近づいているそうです。『除染』人の通らない山や川は一切除染されておられません。自然に落ちている木の枝やどんぐり、松ぼっくり等は放射染料が今でも高いです。なので、木工クラフトをするときは、お金を出し、他の県から材料を買います。どんぐりや松ぼっくりって買うものだったっけ？いっぱい落ちているのに。あと、何年続くのだろう。

福島県では18歳以下の子供たちを対象に甲状腺ガン検査をしています。2013年の患者数74人、2014年117人、2015年163人。これに対して国は、原発事故の影響ではないと言っています。ですが、原発事故前まで日本における小児甲状腺ガンは年間100万人に0～3人だったそうです。

なのに、今回の福島県の調査では年間100万人に302～401人と従来の百倍を超える小児甲状腺ガンが見つかっています。原発事故の影響が無いのなら、なぜ毎年患者数が減らないのでしょうか。私にはよくわからないことばかりです。

このような環境の中で、他県の方たちは『福島へ遊びに行きたい。』『福島で暮らしたい。』などと思う方はいるのでしょうか？おそらく、『福島は怖い。』と思われるかたの方が多いと思います。そうです。私たちだって怖いんです。その中で暮らしていて、『少しでも離れたい。』『忘れたい。』『放射能からの影響から子供たちの体を休ませてあげたい。』という思いで私たち福島県民は保養へ行くのです。(Bさん)

## 少しずつ保養が少なくなってきました。まだ保養が必要な子供達が沢山います

昨年に引き続き、今年も参加させて頂き、ありがとうございました。

自然豊かな所で、緑をたくさん見て、きれいな空気を沢山吸って、木や土や虫さん達のおい、気持ち良い風を感じ、最高の環境の中で過ごし、心身ともにリフレッシュさせて頂きました。

子供達は、思いっきり外で走り回り、川に入ったり、おたまじゃくしや虫とりをしたり、自然の中で思いのまま過ごし、普段見ている顔とは違い、とても生き生きしていました。起きるなり朝御飯前にも外へ遊びに出ていき、これが本来の子供の姿なんだな、と感じました。

福島では除せんが進み、公園等で遊ぶ事が出来ますが、まだ、山や田んぼ、畑、川、土遊びは、線量が高く、子供達には近寄らないように話しています。子供達は、福島でも自然の中で遊びたいと思っています。

でも、どうしても心配が常にあり、親である私が色々と制限させてしまっています。低線量被爆の影響がなければよいなと思います。

震災から5年がすぎ、放射能への意識も薄れてきて、周りの考えも様々で、今は福島で放射能の話をする事は難しくなってきました。はちみつ会の保養では、同じ考えのママ達と、不安や悩み、日頃溜め込んでいたことを話すことが出来ました。その時の私にとって、とてもありがたい貴重な時間になりました。スタッフやボランティアの皆さんとお話しして、元気を頂きました。

皆さん仕事を抱え毎日の忙しい中で、沢山の時間や支援をありがとうございました。震災後5年以上すぎたいまなお、応援し続けて下さることは、本当に大変な事だと思います。沢山のあたたかいお気持ちや支援に支えられてきました。寄り添ってもらえることの心強さを感じ、助けられました。

少しずつ、保養が少なくなってきました。まだ保養が必要な子供達が沢山います。安心安全がうたわれていますが、まだまだ安全だとは思えません。福島の今の現状やまだ原発事故が終わっていないことなど、もっと知ってほしいです。

最後に、はちみつ会に関わって下さった皆様、ご支援くださった皆様、福島の私達を忘れずに思い続けて下さる全ての方に感謝いたします。ありがとうございます。(Cさん)

## またいつもの仲間と会える、話を聞いてもらえる心のオアシス

東日本大震災当時、私達家族は浜沿いのいわき市に住んでいました。下の息子は3歳で、いわき市でも山の方にある幼稚園の入園が決まっていたのですが、山にも放射能物質がたまっていた為、入園をやむなくキャンセルしました。

ほぼ家に閉じこもりな生活、換気扇は使わない、外出時は必ずマスクを付けるなど過剰なくらい気を使っていました。

1年後は、海沿いにある風で空気の流れの良い幼稚園に入園しました。

同じ市内でも放射能数値が全然違うのです。園内も砂の入れ替えなどはありませんでしたが、息子には、砂遊びも「だめよ。」草や落ち葉も「放射能だから触っちゃダメ。」など毎日言っていました。小さい子はその時期にいろんな遊びで吸収できるようなことは制限されました。

家に帰ってからは全て着替えることも毎日行いました。

3年後、主人の転勤先が福島市でした。私達家族はとても悩みました。福島市はいわき市と比べると放射能数値が高かったからです。

私はわざわざ数値が低い場所から高い場所に引っ越しをするなんて、息子にとってそんな酷なことはしたくないと思いました。それで親にも相談したら家族一緒に住むのが一番良いと言われ、決心をし、福島市に引っ越しをしました。

しかし、私は現実を受け入れたくなくて、7月の夏休みの引っ越し後、2学期が始まるまで全国の保養をつないで1ヶ月は福島に帰りませんでした。帰りたくなかったと言うのが本心です。

2学期になり、新しい幼稚園に行くとみんな意外と普通に生活していました。

いろいろ考えすぎている私でしたが、それでも、洗濯物は室内干しで、水道水は飲まない、外遊びは控えめになど私なりに徹底していました。それらの良し悪しは個人個人で考え方が違いますが、今も現状維持です。

はちみつ會のツアーは主人と息子は3回、私は2回参加させていただいております。スタッフ、ボランティアの皆さんは私達のことを親身になって考えてくださり、毎日楽しませていただき癒しをいただいております。

福島の人にとっては、最初は放射能からの逃げ道だったのかもしれませんが。

しかし、今となればまたいつもの仲間と会える、話を聞いてもらえる心のオアシスなのです。

息子も大知沢の野山を走り回り、美味しい空気をたくさん吸い込み、大自然に触れ、二泊三日、いっぱいいっぱい外遊びを満喫しております。私達、親の方もリラックスさせていただき、毎日笑顔で過ごさせていただいております。

私達にとって、はちみつ會は、場所は少し遠いですが、いつでも待っていてくれるかけがえのない存在なのです。

毎回、私達大人数を迎え入れてくれることは大変なご苦勞があつてのことと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。息子もときおり思い出しては「はちみつ會楽しかったな！」「また行きたいな！」と言っております。

震災から5年が経ちましたが、自宅の除染作業がいまだに行われていたり、風評被害もまだあります。そんな中でのはちみつ蒼のツアーは、私達にとって心からの楽しみでもあり、この現状を吐き出させてくれる大切な場所なのです。(Dさん)

**はちみつ會は、これからも、福島の方々の声を受け止めながら、保養ツアーをつづけていきたいと思ひます。活動の継続のために、ご支援をお願いいたします。**

発行 はちみつ會 2016年7月

ホームページ <http://hachimitsukai.jimdo.com/> TEL 080-8898-7860 (八木)

◎寄付金振込先：ゆうちょ銀行 (ゆうちょ銀行から：00150-8-711082/他行から：〇一九支店 当座 0711082) いずれも口座名義：ハチミツカイ